

不登校児童生徒の学習支援と
フリースクール等との連携事業

事業実績報告書



特定非営利活動法人バンブー

令和8年3月31日

1、はじめに

- ◆この委託事業は、フリースクール等における不登校児童生徒の学習支援について、インターネットを活用した学習支援や、実技や体験活動による多角的な観点の学習支援、社会的自立に向けた進路学習の支援を行うとともに、学校・保護者との連携について、学校及び保護者との望ましい連携を実現することを趣旨としています。
- ◆フリースクールバンブルームでは、趣旨を理解し委託業務を遂行するため、中学教員免許所持のスタッフ1名と、言語聴覚士・公認心理士1名、心理カウンセラー2級1名、放課後児童支援員資格所持のスタッフ4名、その他放課後児童健全育成事業業務経験者1名の計8名で業務を遂行いたしました。
- ◆学習支援を行うに当たり、学習指導要領に基づいた「思考力、判断力、表現力」など「生きる力」を育むために、こどもや学校等の実態に応じた特質、学習経過を踏まえた、PC、タブレット等のICTを積極的に活用した深い学びの実現に向け支援を行いました。
- ◆また、学習能力等において学年を問わずばらつきがあるため、各ご家庭と相談を行いながら、本人の無理の無い範囲で学習等の活動支援を行いました。
- ◆そして、実技や体験活動においては図画工作や運動、自然体験や社会科見学等をベースに「千葉市における不登校児童生徒が通う民間施設についてのガイドライン」を十分に理解し、児童生徒が興味をもって積極的に取り組めるよう工夫しながら実施を行いました。
- ◆さらに、入会前の面談や、希望があった保護者との面談、お迎え時の情報共有を密に行い、児童生徒が「明日も明後日も来たい場所」を目指して活動ができたと思っております。
- ◆以下、この1年間に行った支援や活動、連携について報告を行います。

2、インターネットを活用した学習支援

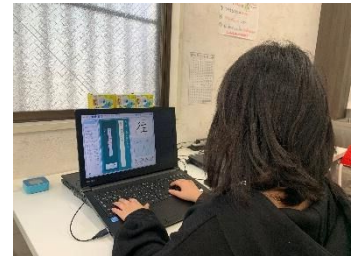
1、活用した学習支援ソフトと概要

- ◆当フリースクールでは、下記3つの学習支援ソフトを使用して、学習支援を行いました。

学習支援ソフト名	業者名	ソフトの使用方法
天神	株式会社タオ	インターネット接続型
Scratch	Scratch 財団など	インターネット接続型
Office	マイクロソフト コーポレーション	PC インストール型

■天神

- ◆主要5教科における千葉市で使用されているすべての教科書に準拠されているためより高い学習効果が得られます。
- ◆映像を見ながら授業を受ける「映像学習」では、学年問わず児童生徒の学習レベルに合わせて実施が可能です。
- ◆学力自動判定システムを搭載しているため、児童生徒の学力状況の参考にすることも可能です。
- ◆市町村別に教科書を選択できるため、他自治体からの転入等にも対応ができます。
- ◆解説を読みながら單元ごとの問題を解いていく「反復学習」で思考力を養います。
- ◆「反復学習」で学んだ單元に応じて問題を作成することができ、「テスト学習」ができるなど目的別に学習が可能です。
- ◆学習日や学習予定日などを記録することができ、指導計画を立てる上でも計画が立てやすく児童生徒も学習しやすくなっています。



■Scratch

- ◆Scratch は、文部科学省が発行した「小学校プログラミング教育に関する研修教材」のなかで推奨されています。
- ◆対象年齢は、小中学生を対象にデザインされているためとても学びやすい特徴があります。
- ◆文部科学省では、「正多角形をプログラムを使ってかく」などプログラミング言語の基本的な操作等に関する教材も用意されています。
- ◆主にマウスを使った学習になるため、キーボードに不慣れな小学生でも使用可能です。
- ◆プログラミング学習を行うことで、目的を達成するために必要なことを理解し、どのように指示を与えるべきかを考える思考力を養うことができます。



■Office

- ◆Microsoft では、文章作成を行う「Word」や表計算を行う「Excel」、プレゼンテーションを行う「PowerPoint」など社会に出た際に通用する Office アプリケーションを使用し、ICT スキルを身につけます。
- ◆「Word」では、「お手紙を書いてみよう」など楽しく文章作成を行ったり、「Excel」や「PowerPoint」では表計算やプレゼンテーションに挑戦し、社会で使う実践的なスキルを身に付けていきます。

2、指導計画について

■指導計画の策定にあたって

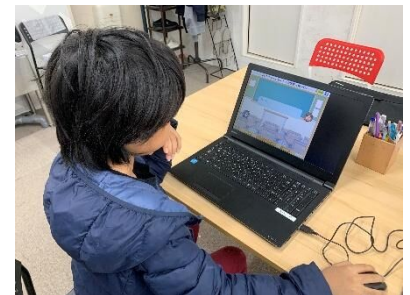
- ◆指導計画については、文部科学省の定めている学習指導要領を理解し、各教科等の目標及び内容に沿って当フリースクールの教員免許を所持するスタッフ、心理的資格・知見を有するスタッフが中心となり作成を行いました。
- ◆また、当該児童生徒が在籍している千葉市の各小中学校にて策定された年間指導計画を参考にし、個々に応じた指導計画の策定を検討いたしました。
- ◆しかし、フリースクールに通う児童生徒は、学習能力にばらつきがあり計画に沿った指導を行うことが難しく、状況に応じ本人の無理の無い範囲で活動が行えるよう支援を行いました。

3、学習活動の内容

- ◆学習指導要領に基づき、「思考力、判断力、表現力」など、「生きる力」を育むため、こどもや学校等の実態に応じ各教科等の特質や学習過程を踏まえて、PC やタブレット等の ICT を積極的に活用し深い学びの実現に向け学習支援を行いました。
- ◆また、学習したものについては記録、共有を行い、振り返りができるよう取り組んでまいりました。

■学習支援ソフトを使用した学習

- ◆主要5教科については「天神」による映像授業を見た後、ポイント整理を行い学習内容を確認します。
- ◆その後は小单元ごとの問題を解き、合格点を目指します。
- ◆また、苦手な单元や、復習が必要な单元については、学年をさかのぼり定着するよう意識して取り組みました。
- ◆児童・生徒によっては学校より配布される定期テストや、ワークテストを実施し、どのぐらい定着しているかを確認することができました。



■「Scratch」を活用したプログラミング学習について

- ◆「Scratch」では、「やりたい、作りたいもの」を処理ブロックを使用して組み立てます。
- ◆リズムを作る「音楽」の授業や、簡単なゲームを作る「技術」の学習に使用しました。
- ◆また、作成した物を発表し、表現力や伝える力を養いました。

■「Microsoft」を使用した「表計算」や「文章作成」、「プレゼンテーション」学習について

- ◆社会に出ると多用する「Office」を使用した「情報・技術」の学習に取り組みました。
- ◆父の日や母の日に「Word」を使用してお手紙を書いたり、「Excel」で表計算や「PowerPoint」を使用したプレゼンテーションをするなど社会における実践的なスキルが身につくよう工夫して実施いたしました。

4、学習支援ソフトの効果

- ◆フリースクールに通う児童生徒は、学習能力にばらつきがあり計画に沿った指導を行うことが難しく、状況に応じ本人の無理の無い範囲で活動が行えるよう支援を行ってまいりました。
- ◆その点から考えると、個人のペースや進度に合わせて個別学習を行うことにより、効果が上がっているのではないかと考えられます。
- ◆また、児童生徒によっては学習習慣がない状態からのスタートであったが、1日1単元等少しずつ学習を進めることにより、自ら率先して取り組むような変化も見られました。
- ◆学習の進め方については、以下のように取り組んでまいりました。
 - ①5分から10分程度の映像授業を視聴し、ポイントの整理を行います。
 - ②小単元ごとの問題に挑戦し、不正解箇所については類似問題を解き、合格点を目指します。
 - ③不正解箇所が多い場合は、映像学習や、ポイントを再確認し、理解できるまで解説を行います。
 - ④小単元の問題が終了した後は、単元ごとのまとめテスト又は学校のテストを実施し、単元を終える。①～④を繰り返し、学習支援を行いました。
- ◆上記のように進めたことにより、学習が習慣化し、自ら積極的に取り組む児童生徒が増加してきました。
- ◆さらに、短時間での学習が可能のため、自然と取り組む量も増加していく傾向となりました。
- ◆天神での学習を積極的に行った生徒は、定期テストで大きな点数の上昇がありました。
- ◆点数の上昇に伴い、自信を付け、より意欲的に取り組む姿を見ることができました。

3、実技と体験活動について

1、実施した実技について

- ◆実技や体験活動については、図画工作や運動、自然体験や社会科見学等をベースに「千葉市における不登校児童生徒が通う民間施設についてのガイドライン」を十分に理解し実施にあたってまいりました。
- ◆また、活動については各月の学校報告と、日々のお迎え時等を活用して保護者や学校へ随時報告を行いました。
- ◆実施したプログラムについては下記の通りとなります。

■図画工作等の創作プログラム

- ◆千葉市において子どもルームの運営を並行しているため、図画工作等の創作プログラムにおいてより多くの活動を計画し、実施することができました。
- ◆身近な素材を使用した工作に取り組むことで、作り上げる楽しさを体験する「リサイクル工作」を実施いたしました。
- ◆また、夏には「うちわ作り」、秋には「ハロウィン工作」等季節に応じた工作を行いました。時間をかけて作成することにより、仲間同士で協力する姿や、教えあう様子を見ることができました。



■理科実験プログラム

- ◆スライム作りなど楽しく学べる活動を計画し、実施してまいりました。
- ◆ただ作る実験ではなく、素材や物質の変化を考えながら活動を行いました。
- ◆また、顕微鏡を使用して気になるものの観察やどのような作りになっているかを調べることができました。



■体を動かす活動

- ◆近隣公園では、積極的にボール運動や、かけっこ等を実施し、運動の楽しさを学びました。
- ◆また、鉄棒や縄跳びを使用した運動を取り入れ筋力の向上や、バランス感覚を養うことができました。
- ◆さらに、大縄跳びや鬼ごっこ等の大人数で取り組む活動も実施し、児童生徒同士協力することの大切さなどを体験することができました。
- ◆体を動かし、汗をかく中で水分補給の大切さについても指導を行い、重要性等理解してもらえるきっかけ作りを行うことができました。



2、実施した体験活動について

■自然体験

- ◆当フリースクールの近くには自然に囲まれたプレーパークがあり、積極的な利用を行ってまいりました。
- ◆昆虫採集や植物観察に加え、火おこし等普段できない体験、自ら考えて様々なことにチャレンジすることができました。
- ◆また、徒歩圏内に公園が複数あるため、様々な公園で植物観察や、昆虫観察を行い、理科実験プログラムと関連して自然体験を行うことができました。

■校外学習

- ◆定期的に校外学習を行い、日常生活において体験することが少ないものや、新たな発見を促し、知識や経験として定着できるようなきっかけ作りを行ってまいりました。
- ◆夏には、こてはし温水プールにて、水中での安全に関する知識を身に着的たり、冬にはアクアリンクちばにて、バランス感覚を養うためアイススケートを実施いたしました。
- ◆季節を感じながら、それぞれに目的を持ち体験を通して学習だけでは得られない多くの学びを得ることができました。
- ◆また、2月にはフォレストアドベンチャーに行き、レベルの高いアスレチックの体験や、ルールを守って楽しむ大切さを学ぶことができました。
- ◆令和7年度も昨年度同様、近隣の畑をお借りし、様々な野菜を育て、種まきから収穫まで一連の農業体験を行いました。
- ◆季節に応じた野菜等を相談し、野菜ができる過程を観察しながら積極的に育ててまいりました。
- ◆収穫後は自宅に持ち帰った後、各ご家庭で調理を行い食べる食育活動も行いました。
- ◆農業体験だけではなく、地域の方との交流も大切にしながら活動を行うことができました。



3、実施した実技・体験活動における成果について

- ◆実技や体験活動を通して、各児童生徒様々な成果を得られたと感じております。
- ◆楽しんで学習することは、机上の学習だけでは養うことのできない学びを得られる良いきっかけとなりました。
- ◆自然体験や理科実験プログラムについては、理科が好きな子が中心となり事前準備等計画的に物事を進めていく計画性や、調べたことを発表する話す力を養うことができたと感じております。
- ◆校外学習についても、様々な取り組みを行う前に計画を考えたり、実際に活動を行っていく中で体験したことを自分の言葉でどのように感じたかを伝えられるように工夫していました。
- ◆農業体験では、普段食べているものがどのように作られているのか、また、食べるまでにどのような工程で作られているのかを知ったり、作ることの大変さを肌で感じることもできるとても良い体験活動だったと感じております。
- ◆さらに、地域の人と関わることにより、地域の方々ともコミュニケーションが生まれ連携といった意味でも非常に意味のある体験活動だったと思います。

4、実施した実技・体験活動における児童・生徒の声について

- ◆実技や体験活動を実施した後は、振り返りとして実技や体験活動について感じたこと等の発表を行いました。
- ◆さらに、次回以降の活動をよりよくするため、次回以降工夫する点や活動を行う場所の話し合いも行いました。
- ◆以下、児童生徒の声抜粋

●実技

～理科実験プログラム～

- ・顕微鏡を使用して植物や、生き物のつくりを観察した。普段見ているものとは大きく違い、様々な形があり面白かった。身近なものを顕微鏡で色々観察してどのようになっているか見たくなった。
- ・自分の興味のあることができて楽しかった。植物や生き物がなぜこのような作りになっているのかより詳しく調べてみたいと感じた。

●体験活動

～畑体験～

- ・野菜を育てるのはとても大変だった。次回何の野菜にするか考えるのが楽しみ。
- ・収穫がとても楽しかった。今回もたくさん収穫できてうれしかった。
- ・持ち帰って家で食べた。とてもおいしかった。もっと色々な野菜を育てて色々なものを調理してみたい。

～校外学習～

- ・プールでたくさん泳ぎの練習ができた。もっと長く泳げるようになりたい。
- ・今回のアイススケート、とても楽しかった。少しずつ滑れるようになって嬉しかった。今度はリンク一周をスムーズに滑れるようになりたい。
- ・ずっとみんなで行ってみたかったフォレストアドベンチャーに行けてよかった。景色がきれいだったし、迫力のあるアスレチックで満足できた。
- ・高いところや、早くて怖いと感じることがあったが、良い思い出になった。他の場所にも行ってみたい。

4、進路学習支援

1、進路学習支援の実施について

- ◆進路学習支援については、児童生徒・学校と連携し支援を行ってまいりました。
- ◆小学生については人間関係や身辺整理など個々のペースで生活を自立的に行えることが進路学習であると考え、丁寧に支援を行ってまいりました。
- ◆また、中学生については自分で考え、自分自身の長所を大切に、希望する進路を実現するため、考えたことを他者に伝える表現力を磨き、自分で考えて行動できるよう支援を行いました。

2、定期テストや進路面談等の実施について

- ◆今年度在籍のあった小学校6年生は児童2名のみでしたが、学校や保護者と進路についての相談を行い、相違が無いように連携を行うことができました。
- ◆中学生の生徒は自主的に学校から定期テストを持参したり、学校で実施するなど、積極的に取り組んでおりました。学校へは毎月の報告書にて報告を行ってまいりました。
- ◆また、小学生の児童は学校からいただいたテストを実施し、実施後は学校へ点数等の報告を行うと同時に様子や活動についてお話をすることができました。

3、キャリア教育について

- ◆キャリア教育については、個性や発達段階を踏まえ下記の目標を設定し、活動を行いました。

小学生	中学生
(1)気持ちの良いあいさつ、返事を心がける。	(1)個性や立場を尊重し、他者とかかわりを持つ。
(2)友達と仲良く活動する。	(2)自分の意見についても適切に表現を行えるようにする。
(3)日常生活に必要なきまりを守れるようにする。	(3)他者との意見交換を大切にする。
(4)遊びや学習を楽しみ、積極的に活動できるようにする。	(4)自分の個性を生かした活動ができるようにする。
(5)自分の特徴に気づき、良いところを伸ばす。	(5)時間を意識した行動ができるようにする。
(6)将来を見据えた生活、行動を意識できるようにする。	(6)働くことや社会に参加することの意義を理解する。

- ◆各児童生徒、目標に向けた行動を心がけ、積極的な活動を行うことができました。
- ◆新たな目標を設定する際は、本人が理解しやすい言葉を使用し、話すことで本人も自覚が芽生え行動の変化を見ることができました。
- ◆日々成長していく児童生徒を見守る中で、目標設定は成長する上で非常に高い効果がありました。
- ◆達成度については個人差があり、成果を具体的に明示することは難しくなっておりますが、確実にキャリアを積むことができていると感じております。

4、各在籍校等との連携について

- ◆進路に関する相談は在籍校との進路面談を踏まえて、保護者・学校・フリースクールで相違が無いように実施してまいりました。
- ◆フリースクールでの過ごし方や活動の様子を実際にお伝えし、学校復帰する際や進路先で積極的な活動できるように連絡を密に行い、連携を行ってまいりました。

5、望ましい学校・保護者との連携の在り方

1、出席状況や活動報告について

- ◆出席状況や、活動報告については主に電話とメールにてやり取りを行ってまいりました。
- ◆活動報告書兼出席報告書については、日付、入退室時間、活動内容、を記入し報告を行ってまいりました。
- ◆また、備考欄にはその他特記事項を記入を行い活用してまいりました。
- ◆在籍校への出席扱いについては、通学している児童生徒すべての学校で頂くことができました。
- ◆メールにてやり取りを行った後、直接確認のお電話をさせて頂き、日頃の様子等、活動報告書だけでは伝えきれないものも合わせてお伝えし、学校とより良い連携が取れたと感じております。

フリースクール Bamboo Room		2月	〇〇
日付	入退室時間	活動内容	その他
2/25 (火)	09:00-14:30	今日は天候も悪化して学習を行いました。 資料 人やほかの動物の体のつくりとはたらき	
2/26 (水)	09:00-14:30	本日も天候も悪化して学習を行いました。 資料 人やほかの動物の体のつくりとはたらき 習字 小動物	
2/27 (木)	09:00-14:30	本日も天候も悪化して学習を行いました。 算数 動物の図鑑①、②	
2/28 (金)	09:00-14:30	本日も天候も悪化して学習を行いました。 資料 人やほかの動物の体のつくりとはたらき	
備考	出席16名、欠席2名		
保護者との関係状況	なし	学校との連携状況	2/28 〇〇校 児童生徒15名

2、入所・入所後について

- ◆入所前後の流れについてのステップは、以下の通りとなっております。
 - ①入所前に見学や体験を行い、どのような活動を行うのか、丁寧に説明を行います。
 - ②入所が決まった際の面談では、学習支援者や心理の専門スタッフが同席し、現在の状況や学校へ行けなくなってしまう経緯、学習状況等可能な範囲で聞き取りを行い、入所後の対応について確認を行いました。
 - ③また、入所後発熱やケガ等の緊急時にも対応できるよう、緊急連絡先をいただき児童生徒が安心して適切に学習や活動が行えるよう、環境を整え保護者の方にも安心感をもっていただけるよう工夫を行ってまいりました。
- ◆当フリースクールに通うことが決まった児童生徒には、入所する旨を保護者の方から在籍校へご連絡を最初にしていただき、入所後スムーズに連携を取ることができました。
- ◆また、各在籍校への報告については活動報告書兼出席表を使用し、提出を行いました。
- ◆学校の校長先生も実際に来所され、活動の様子を見ていただき、意見交換や情報交換を行うことができました。

3、学校に関わる他機関との連携について

- ◆今年度は学校以外にも学校に関わる機関と連携を行い、活動を行うことができました。
- ◆教育支援課による現地の視察や、意見交換、情報共有等を積極的に行い連携を図ってまいりました。

4、個人面談や保護者会の実施について

- ◆今年度は、全体への呼びかけで複数名の個人面談を実施しました。
- ◆また、希望があったご家庭については随時面談を行い、心理の専門スタッフや学習支援者が同席し現在の状況や悩み事について向き合いました。
- ◆個人面談だけでなく、日常的に児童生徒の様子や活動内容を伝えることで、保護者も安心感をもってもらえるよう努めてまいりました。
- ◆保護者会については、各ご家庭の事情もあり開催には至りませんでした。仲の良い児童生徒を介してつながりを持つことができたと伺っております。